

Message Studio Ver1.0 から Ver1.1 への移行について

任天堂株式会社 情報開発本部 技術制作部

作成：2009/12/11

この文書では、Message Studio Ver1.0 から Ver1.1 へ移行する際の注意点をまとめています。

ファイルフォーマットの互換性について

プロジェクトファイル(*.msproj)およびメッセージファイル(*.mstxt)は、ファイルのフォーマットバージョンが上がっています。

- Ver1.0 で作成したこれらのファイルを Ver1.1 で開くことは可能です。
- Ver1.1 で作成したこれらのファイルを、Ver1.0 で開くことは出来ません。

これらの制限があるため、Ver1.1 へ移行される場合はチーム全員で同時に乗り換えていただきますようお願いいたします。また、チーム管理機能を利用している場合は、移行の際にファイルの衝突などが起こりやすくなる場合があります。

プラグインの互換性について

Ver1.0 と Ver1.1 の間にプラグインの互換性はありません。Ver1.0 用のプラグインを、Ver1.1 で利用することも、その逆もできません。

パーミッション機能について

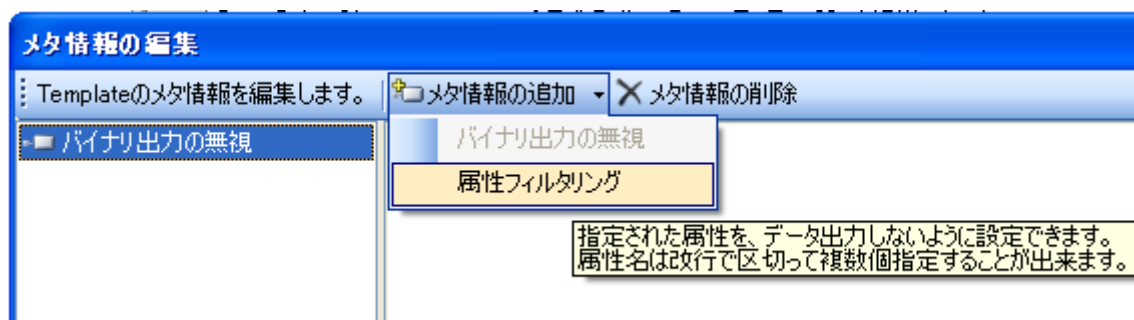
以下のパーミッション設定項目が追加されました。

- プロジェクト フォント設定
- コンテンツ メタ情報設定

Ver1.1 のプロジェクトウィザードで作成されたプロジェクトファイルでは、これらのパーミッションをこちらの推奨に従って設定を行いますが、Ver1.0 のプロジェクトウィザードで作成されたプロジェクトファイルでは、全ロールにおいて許可された状態になっています。必要に応じて設定を行ってください。

属性のバイナリ出力について

今までは、バイナリ出力をするかしないかは属性の設定としてチェックボックスで設定できましたが、Ver1.1 からそれが廃止になりました。代わりに、属性を、ファイルやディレクトリごとにフィルタリングできる機能が追加されました。プロジェクトエクスプローラからコンテンツファイルあるいはフォルダを右クリックし、「メタ情報の編集」をクリックします。属性フィルタの項目を追加したあとに、フィルタリングしたい属性名(定義名)を入力してください。改行によって複数個入力することが可能で、フォルダにつけた場合はサブフォルダまで再帰的に適用されます。



Ver1.0 で作成されたプロジェクトファイルで、属性のバイナリ出力を無視するように設定されたファイルは、自動的に、ルートにメタ情報がついた形へ変換されます。

詳細検索条件保存について

詳細検索の条件を保存したときに、今までは*.query という拡張子で保存が行われていましたが、*.msqry に拡張子が変わりました。ただし、中身のフォーマット自体は変更されていませんので、以前の検索条件を利用する場合は拡張子を変更してください。

出力されるリソースファイルの互換性について

Ver1.1 と Ver1.0 では、出力される標準のリソースファイルフォーマットで変更点はありません。libms の API にはいくつかの変更点があります。まず、以下の関数はアプリケーション側から直接呼び出す必要がありませんので、内部関数に変更されました。

- LMS_AnalyzeMessageBinary
- LMS_AnalyzeMessageBlocks
- LMS_AnalyzeMessageHeader
- LMS_SearchBlockByName

以下の関数が追加されました。

- LMS_GetMessageBlockInfoByName

以下の関数は戻り値の型が変更になりました。

- LMS_SearchMessageBlockByName